米づくり体験隊　　第３回　報告　「草とり体験」　　（２０１６．０７．１６）

７月１６日（土）　開会：午前９時３０分

田植えで一緒になった方々の再会です。活発なお子さん達も元気な顔を見せています。
天気が今一で、曇天、　青空ではありませんが、今日もたくさんの参加者が集いました。
「田んぼの草とり」って、どんな草かな？　イネとはどんな違いがあるのかな？
思い思いの疑問を抱きながら、開会式に臨みました。

「のぼり」が私たちを迎えてくれます。

開会式前の田んぼです。
「大山」はうす曇りの中、姿はありません。

６月１８日の田植えから約一ヶ月が過ぎました。イネの生育ぐあいは如何ですか？
約４０ｃｍにも成長しているイネもあります。

私たちの田んぼです。成長したイネの様子が良く分かります。手前はイネの列が目立ちますが、目をやると、もやもやとした緑のかたまりも見えます。イネの列の間に何かが生えています。

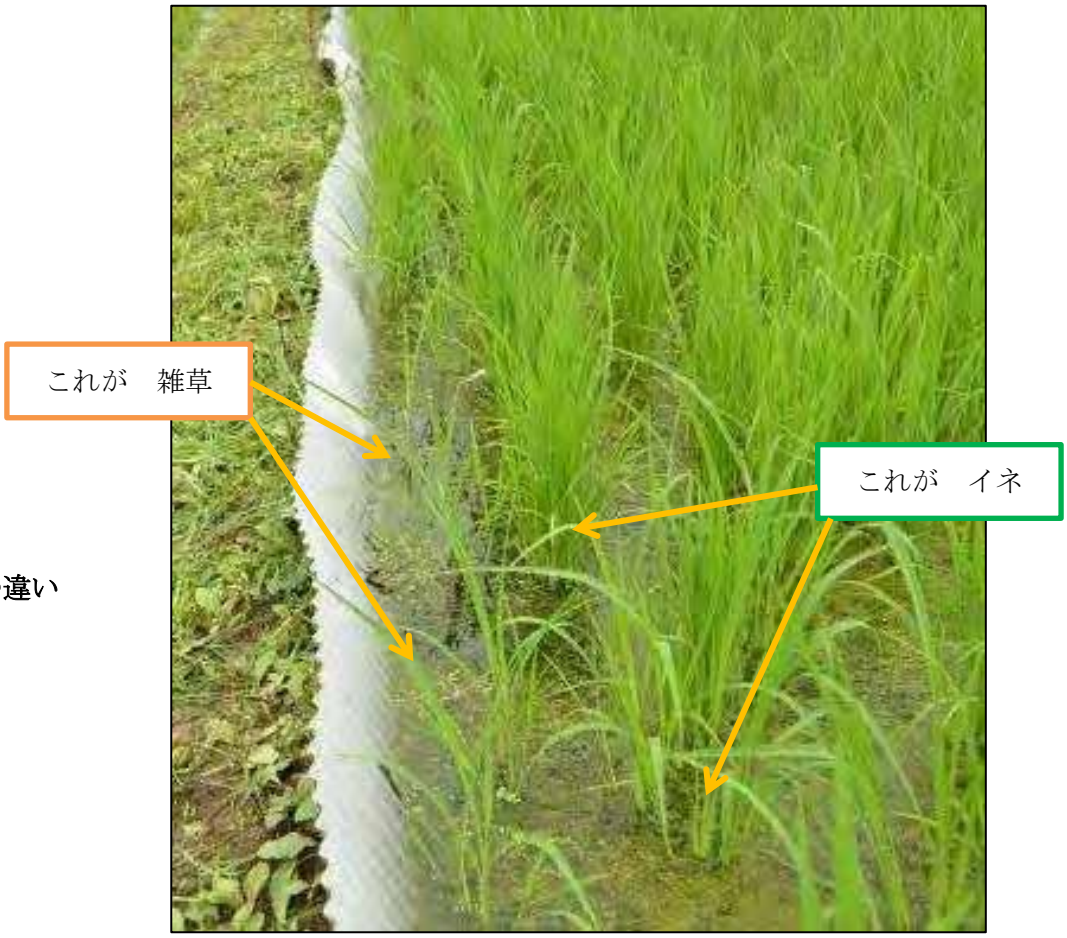
「開会式」　会長さんのあいさつ。　（石塚会長）
沢山のメンバーが集いました。

「田んぼの雑草は、これだ」　手をかざして見せてくれます。　（目つぶりで、ごめんなさい）

田んぼの中に入り

「雑草は・これだ」と、示してくれます。

とは云え、イネとの区別は難しい。付きません。



◆　生え方の違い

田植を思いだしてください。イネは何本かをまとめて植えたので株を作っています。
写真を比較してください、生えぐあいはイネの株と雑草との違いがはっきりと分かります。

◆　形の違い

■　雑草：　私たちは田んぼでイネを育て、沢山のお米を収穫しようとしています。そのためには、イネ以外の植物が生え、茂ってはいけません。それらがイネに対して雑草といわれます。

今回は、稗（ヒエ）を取り除きました。ヒエは主な五つの穀物、五穀（ごこく・イネ、ムギ、アワ、ヒエ、マメ）の一つといわれ、食料が不足した時代や地方ではアワやヒエを主食とし、お米に混ぜて食べた歴史がありました。ヒエも大切な食料の一つですが、イネを育てるために雑草のヒエを抜きました。

いざ、雑草取りに出陣です。

子ども達は、手を引かれながら田んぼに入ります。

抱きかかえられて・・・。
勇気がわき上がります。

足元の感触に、ドキドキしながら、歩み、雑草を抜きます。

足元は慣れてきました。
雑草求め、それゆけ、前進だ・・・。

雑草取りは、まだ、スタート段階です。　　田んぼの広さは、約１反（３００坪)、ひろいなあ～

QUIKSILVER

皆との共同作業は、いよいよ終盤にさしかかりました。

稲作文化は、互いに協力し合うことから育まれてきました。　共同体の形成です。

取り除かれたヒエです。努力の結果が積み重ねられました。

雑草が取り除かれたことにより、イネの株の列がはっきりしています。 緑のもやもやは見当たりません。

子どもたちの「お目当て」

アマガエルです。中には、しっぽを付けたままのオタマジャクシが見られました。

家に持ち帰り、
生きていますか？
元気にしていますか？

最後に、運ばれた水槽のきれいな水で、足を洗います。

閉会式です。　皆さん、ちょっと遠慮がちですね。

次回は、秋。　今、緑色のイネは、はちきれそうに実った黄金色のモミをいっぱいに付けます。私たちの田んぼだけではありません、辺り一面が黄金色に輝きます。

田んぼのある寺田縄地域は、金田地区に属しています。　「金田」という地区の名前は、明治２２年（１８８９）４月、市町村制が施行され、江戸時代の寺田縄村、飯島村、入野村、長持村の四ヵ村が合併して「金田村」となりました。命名の由来は、周辺の水田地帯が秋になると実り豊かな黄金色の田園地帯になります。この「水田地帯の豊熟の金波に誇りと感謝の気持ちを含め」（私たちの住む金田ｐ６）「金田村」と名付けられました。

その後、金田村は、昭和３１年（１９５６）９月、平塚市に合併しました。地番から金田の名称が消え「平塚市寺田縄」となりました。しかし、今でも「金田地区」という、地区名は使われています。

次回の収穫までの長い期間、イネの成長、イネの花など、田んぼの移り変わりを発信します。楽しみにしてください。